

入社試験の試験官の視点で…

期末考査をうけているみんなの姿を見ていて、「入社試験でこれはまずいよな」と感じたことを列記します。一言で表すとすると「試験を受けている姿勢が美しい」です。

テスト中は問題を解くことに集中して、つつい疎（おろそ）かになりがちです。単純に学力を問われる大学入試などは、点数にこだわってくればいいのですが、就職試験の場合はそうはいきません。**見た目は重要**です。学校では許されるかもしれませんが、**入社試験では致命的**になることが多々あります。日頃から心がけるようにして、本番で“ついうっかりやっちゃった”ということにならないようにして欲しいですね。

☆入社試験(筆記試験)におけるタフー

1. 時間が余っても決して寝ない。机に伏せない。

期末考査の様子を見た限り、クラスの半分の人ダメですね。入社試験では、時間いっぱい回答して、何度も見直しましょう。**居眠りは最悪！机に伏せた時点でアウト！**

2. 常に美しい姿勢で受験する。販売・接客業は厳しく見えています。

- ・机に伏せない、足を組まない、開かない、椅子の上で胡坐（あぐら）をかくななんて問題外。
(授業中も時々いますね、こういう人。美しくありません。)
- ・靴を脱がない、靴やスリッパをパタパタしない。
- ・スカートを短くしない。たくしあげない（暑くても我慢）。
※他にも細かいことを言えば、ペンの持ち方、消しゴムのカスの始末まで見られます。

3. 文字は丁寧に。誠意ある記述を。

※履歴書で苦労しましたね（経験上、ペンの持ち方がヘンな人は、文字が下手です）。



☆作文試験での注意事項

○作文試験の目的は、「この人はどういう人か」を判断することです。

つまり、志望動機や面接と同じです。どのような『お題』であれ、①**自分を語る**（実体験に基づくPRも含めて…）、②**決意を語る**（将来も含めて…）、③**志望動機を語る**ことが重要です。

小論文とは違うので、『論拠』を厳しく求められることはありませんが、作文を通じて伝えたいことを明確にし、「どういう順序で伝えると理解してもらえるか」を考えて書かなければなりません。**思いつくままに書き綴ってもダメ**です（段落分け、構成も考えましょう）。

東進ハイスクールの有名講師である、林先生が作文の書き方について、こう述べていましたよ。「**自分が体験した事実に対する感想とその理由説明を書けば、原稿用紙 1 枚はすぐ埋まる**」。

「高校生活の思い出」がお題であれば、数ある出来事の中から 1 つを選び、なぜその出来事を選んだのか、そしてどういう感想をもち、何を考えたのかを、相手が理解しやすいように説明していくんです。まずは練習です。時間はありませんよ。

○作文試験で問われる能力

1. 基礎学力…文字が丁寧か。漢字が書けるか。ちゃんとした（話が通じる）文章が書けるか。
2. 社会常識があるか（物事の考え方）。社会人としての意欲や決意が感じられるか。
※履歴書を見ていると、不安な人が多数見受けられます。

☆面接について … 質問に答えつつ、自分をアピールするんです！

面接というのは、面接官の質問に“ただ答えていけば良い”というものではありません。**自分の特徴を理解してもらい、強く印象づけ**（当然好印象）、**自分を売り込む(PR)**ことができなければなりません。そのためにはしっかりと自己分析をして、**自分自身を理解**していなければいけません。

自分の性格・長所短所、得たモノ、考えたことを**過去の出来事、体験と結びつけて**考えてみましょう。そのうえで、「なぜこの分野・仕事・会社（学校）なのか」「この会社（学校）で自分を活かせるポイントは何なのか」を考えて、**自分の言葉で表現**できるようにしましょう。多くの先生に練習をお願いしてください（あえて、厳しそうな先生をお願いするのも良いですね）。**数をこなすことが成功の近道**です。これから面接（特に就職）についてのポイントをいくつか述べたいと思います。

1. 嘘をつく、大抵はバレます

ただし、「嘘」というか、「本当でないこと」が必ずしも悪いとは限りません。**底が割れるような嘘はもちろん NG**ですが、自分さえも騙すことのできる「ある意味演出的な嘘」や、心底そう思ってなくても、**場を読み取った、論理的な判断に基づく発言**などは、場合によっては、好感度の元にもなります。また、**黙ってしまうより、わかりませんという正直な気持ちの吐露**（これもあまりに低レベルなものだと NG 対象ですが）や、**上手く取り繕うことの方が能力を感じさせる**ことがあります。

2. 面接に向かう姿勢がしっかりしているか

面接のテクニックとしては、**面接に臨むときの姿勢**（業界に対する研究成果や、思いを語れるかどうか等）が、重要です。**自分が何者であるかをいかに出していくか、その自分とその企業がいかにマッチしているか**が成否に繋がります。また、自分が受験している企業が何をしている会社なのか知らないようでは困ります。「**私は事務職だから、営業のことは知らなくていい**」なんていうことは**あり得ません**。顧客からしてみれば、事務であろうが、営業業であろうが、アルバイトであろうが、その会社の人間です。会社の人間が、**自社について何も知らないというのは“不信”以外のなにものでもありません**。

3. 第一印象は重要 … 当然、身だしなみは整っていることが前提です。

人事担当者は「**優秀な人は顔を見ればわかるか**」という、必ずしも 100%ではありません。でも、「優秀っぽい人だなあ」くらいは判断してしまうらしいです。（私もある程度はわかります。合否も高確率でわかります）

ただ、この場合の「顔」とは、**顔を含めた「雰囲気」のことを指しています**。いわゆる「**生まれ持った容姿**」のことではありません。あくまで**表情や態度、雰囲気とか**、そういったものです。そして、**ダメな「顔」というのは「生気がない、落ち着きがない、上の空」というような顔を意味します**。

「顔」を見れば大抵のことはわかります。顔そのものというよりは**話している最中にどこを見ているか、どんな表情をするのか**など。**嘘は顔に出ます。本当に好きなことを語っているのも顔に出ます**。

苦勞してきたエピソードも、**どんな表情で語るのか**によって伝わり方は違います。「本当に辛かったのを耐え抜いた」というのと、「辛かったけどみんなで力をあわせて頑張った」というのでは思いは違うだろうし、自分のそのときの立場とかでも違う。そういった**自分の思いをきちんと表現する一つのそしてとても大きな手段が「顔」**なのです。



人間の話の表現力の結構な部分を声とボディーランゲージが占めます。ですから、**表情というのはとても重要**で、自信のほどや、真実性については、先に述べたとおり、結構わかってしまいます。そこで、なかなか出してこないものを見抜くために、困らせてみたり、喜ばせてみたりすることで、性格や話している内容の重さや深さを探ろうとするのが面接官です。